

## Development of a Method Reducing the Effect of Echoes of Migrating-birds on Wind Measurements in the Wind Profiler Network of JMA.

Kenji KOBAYASHI\*<sup>1</sup>, Toshihiro ABO\*<sup>2</sup>, Yasushi IZUMIKAWA\*<sup>2</sup>  
 Kyouichi KAWAHARA\*<sup>3</sup>, Masahito ISHIHARA\*<sup>2</sup>  
 Toshio WAKAYAMA\*<sup>4</sup> and Tomoya MATSUDA\*<sup>4</sup>

\*<sup>1</sup> (Corresponding author) Observations Department, Japan Meteorological Agency, Tokyo 100-8122, Japan. E-mail : kenzi-kobayashi@met.kishou.go.jp

\*<sup>2</sup> Observations Department, Japan Meteorological Agency

\*<sup>3</sup> Kobe Marine Observatory.

\*<sup>4</sup> Mitsubishi Electric Corporation.

(Received 14 October 2003 ; Accepted 18 October 2004)

### 水資源学シンポジウム「国連水の日－気候変動がもたらす水問題」のお知らせ

**主催**：日本学術会議水資源専門委員会，水文・水資源学会，国土交通省水資源部

**期日**：2005年3月23日（水）

**場所**：日本学術会議講堂  
 （東京都港区六本木7-22-34）

**後援**：日本気象学会他

**趣旨**：昨年日本の夏は、西南日本の一部で旱天が続き、一方で多くの台風が上陸して大きな洪水被害をもたらした。これらは、一部では「地球温暖化・気候変化」の現れのひとつではないかと報じられている。この「地球温暖化・気候変化」に関しては、地球シミュレータの成果など、これまでにない高解像度で将来の変化が計算されるようになり、日本では年々の降水量の変動が大きくなる、台風は数が減少するものの強大化する、積雪量が激減するといった見通しが議論されるようになってきている。実際に、日本列島の気候についてこれまでとは異なる状況が確認されているのであろうか、また、今後どのように変化していくと考えられているのであろうか。そして、それは各流域や日本全体の洪水や渇水、水資源、社会・生活、生物などにどのような変化をもたらしているのか、またもたらすと

予想されているのか。

シンポジウムでは、近年と将来に関する気候変動の状況についての最新の観測結果や研究成果を確認し、その上で、水循環や水資源に及ぼす影響とその管理の問題を整理する。また、人間社会、農業生産や環境、生態系に及ぼす影響の変化も含め、水資源学や水資源に関わる技術・制度でこれらの状況の把握や予想される問題に対応できるのかを議論する。

プログラム（講師未定）：

1. 挨拶 日本学術会議・水資源専門委員会，国土交通省（10：00～）
2. 基調講演 「気候変動と水資源」（仮題，10：15～）
3. 報告講演（11：00～，途中昼食）
  - 講演1 気候変化に関する最新の予測
  - 講演2 近年の日本の気候変化
  - 講演3 近年の日本の洪水と渇水
  - 講演4 気候変動と水循環・水資源
  - 講演5 気候変動・水循環変動が社会に及ぼす影響
  - 講演6 気候変動・水循環変動が農業に及ぼす影響
4. 総合討論（15：00～）
5. 挨拶 水文・水資源学会（16：50～）